

農林水産大臣賞

しいの
椎野あじさい組合 (宮崎県美郷町)

花の咲いた集落「椎野あじさいロード」

宮崎県美郷町椎野集落にある「椎野あじさいロード」には、全長7km に渡って約3万本のあじさいが咲き誇り、最盛期の1カ月間でこの小さな集落におよそ1万人の観光客が訪れます。

この椎野集落は、美郷町北郷支所から北へ8kmほどいった山の中腹に位置し、現在8戸の世帯が生活しています。

あじさいロードは、椎野集落の生活道である町道



から北郷地区の名所であるスカイロッジ銀河村の前をとおり、周遊できるようになっています。その途中にあるのどかな棚田のあぜや小高い丘、個人宅の庭などにもあじさいを植栽しています。

この「あじさいロード」は、椎野集落の住民が主体となってあじさいの植栽・管理などを行っており、観光客の目を楽しませています。

また、椎野集落の取組は、近隣に大きな影響を与え、区内のいたるところで花いっぱい運動が盛んになりました。

きっかけは約20年前、北郷区の観光名所でもある中小屋天文台やスカイロッジ銀河村が完成し、区を中心と観光地を結ぶ椎野集落内にも観光客が通るようになったことでした。そこで、椎野集落を通るお客さんの目を少しでも楽しませようと、集落の婦人部の方が自宅の庭に咲いていた『あじさい』を道路脇に植栽し始めました。その活動は徐々に集落内へ浸透し、あじさいの数も増えていきました。今では集落のほとんどの家が参加し、周辺の草刈や剪定、肥料まきや土壌改良など、住民一丸となって手入れを行っています。

その結果、現在の「あじさいロード」は、北郷区を代表する観光名所となりました。



この「あじさいロード」への取組は、「過疎に悩み過疎地に取り残された」と思っていた椎野集落の人々に元気を与えました。来訪者にはあじさいロードに対して自由な意見をもらえるようノートをおき、その言葉に励まされたこともありました。また、遠いところまで足を運んでくれたお客さんを少しでもおもてなししようと北郷特産のお茶などをふるまいました。この田舎ならではの温かいおもてなしと人情味あふれる触れあいが、「みなさんに会いたくてまた今年も来たよ。」と毎年のように訪れるリピーターを増やしていきました。

そして、この活動が北郷区全体にも大きな影響を与えることとなりました。地元商店街ではあじさいの最盛期間中、通常の倍の売り上げを伸ばしたところもありました。また「あじさい」にちなんだお菓子を作り、北郷をPRしようとする商店も出てくるなど大きな経済効果をもたらしました。

しかし最も大きな効果は、北郷のような過疎地域でもこれだけの観光客を喜ばせる魅力を持っているのだという思いを、椎野集落の住民だけでなく北郷区全体の住民が持てるようになったことです。この小さな村でも努力をすれば大勢の観光客を呼ぶことができるという自信から、区内のいたるところで花や木の植栽が行われるようになりました。現在、それぞれの集落、地域の特色を活かし「彼岸花ロード」や「やぶ



椿群生地保全」、「さざんかロード」など農山村の景観を保全し美しい村を残していこうとする努力が始まり、花の観光へと実を結びました。そしてこうした美の里づくりへの活動には地域住民の協力は欠かせず、各集落内の住民の間で深い絆も生まれました。

北郷区民にとって「あじさいロード」への取組は、地域活性化の大きな起爆剤となり、椎野集落の人々のみならず北郷区民の誇りとなりました。

今後は、今まで試行錯誤して培ってきたあじさいの手入れなどの管理方法を、若い世代にも受け継がれるように努力していきたいとしています。

地元住民は、「田が荒れたら、あじさいが咲いても絵にならない」、「あじさいを続けるためにも、畑わさびなど新しい農業経営を考えている」と言います。行

政主体でなく、住民自らが来訪者を喜ばせたいという「おもてなしの心」が今、花を咲かせ、そして新しい農業振興に向けた挑戦が動き出しています。

■講評

山間部という厳しい地形条件の中、地域が1つになって「あじさい」という花を通じて景観保全を行っています。わずか8戸の集落に1万人もの観光客を楽しませ、同時に地域にとっては他の地域から来てもらうことが喜びともなっています。このように、全国的にみても非常に厳しい地形条件、かつ過疎化の進んだ状況のなかで、行政の支援もほとんど受けず、自ら考へ行動し地域を活性化させてきたこと、そして活動の結果さらに集落の結束が強くなり、新たな農村振興に向けた今後の取組が期待されます。

